

まじふ

Vol. 13 No. 1
2016. 5. 1

牧師 中島 聡

「種を蒔く人に種を与え、パンを糧としてお与えになる方は、あなたがたに種を与えて、それを増やし、あなたがたの慈しみが結ぶ実を成長させてくださいます。」

コリント九・一〇

《驚くばかりの主の恵み》

クリスチャンでなくとも「アメージング・グレイスは皆さんよくご存知ですね。十八世紀中頃、奴隷商人であったジョン・ニュートンが、難破寸前の危機を祈りによって奇跡的に助かったことを契機に回心し、やがて牧師となり、多くの讃美歌を生み出すようになったのですが、その奇跡体験を綴ったのが、アメージング・グレイスです。

聖書には、主の恵みがたくさん綴られています。今世界は一週間で七日で守っています。それは、「天地万物は完成された。第七の日に、神は御自分の仕事を完成され、第七の日を神は祝福し、聖別された。」（創世記二・一〜三）という聖書の言葉に由来しています。聖書の創造論によれば、神様は私たちを祝福するために、この宇宙、天地万物を創造された。あり、七日毎に祝福と聖別を与えて下さるので、クリスチャンは週に一度、礼拝を守ります（礼拝を日曜に捧げるのは、救い主イエス・キリストが日曜の朝に復活されたことによりです）。

《信仰五十周年以上を顕彰する》

七日毎の祝福に続いて「ヨベルの年」という祝福があります。これは、「あなたは安息の年を七回、すなわち七年を七度数えなさい。…この五十年目の年を聖別し、全住民に解放の宣言をする。」（レビ記二五・八〜一〇）という聖書の定めによるものですが、神様は五十年目に特別の聖別を宣言しておられます。大きくは、自分の土地を買い戻す権利や奴隷の解消など、どのような立場の人であっても「自由をふれ知らせる」ことが定められています。これらは古代世界の取り決めですが、主は五〇年目に祝福を用意しておられるのですから、私たちは、この「ヨベルの年」を発展的にとらえ、罪の縄目から解き放たれて五〇年目に、主の聖別、祝福を祈り求めることを始めたのです。そして「ヨベルの年」が四千年にわたり語り継がれてきたように、主の恵みである受洗、信仰の継承をなしていくのです。

《年に二回、召天者祈念礼拝を守る》

主は私たちのために様々な祝福を備えておられますが、最大の祝福は、「神はそのひとり子を賜わったほかに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」（ヨハネ福音書三・一六）とあるとおり、やはり信じるだけで与えられる「永遠の命」です。さて、清水ヶ丘教会はこれまで年に一回「聖徒の日」（十一月第一主日）に召天者祈念礼拝を守ってきましたが、今年から年二回行うことにしました。これは、春と秋、年に二回はお墓参りをする日本人のメンタリティに合わせることで、最大の祝福である「永遠の命」に対して年に二回は感謝の祈念礼拝を捧げ、先に天に召された敬愛する先達の先生方・兄弟方と、地にある教会・私たちが祈りによって繋がれ、永遠の命の祝福を覚え続けるためです。創立六八年になる清水ヶ丘教会は、初代・草創期のメンバーを天に送る時代を迎えています。

より一層、永遠の命の恵みに感謝を捧げ、この最大の祝福を告げ知らせていく必要があるのです。

《日々の恵みを与えてくださる主の恵み》

主は私たちのために大いなる祝福を備えてくださる御方ですが、「主の慈しみは決して絶えない。主の隣れみは決して尽きない。それは朝ごとに新たになる。あなたの真実はそれほど深い。」（哀歌三・二二〜二三）とあるとおり、それは一日一日、私たちのことを慈しみたいと願われる「真実の愛」によるものです。大いなる祝福も有難いことですが、本当の祝福とはとるに足りないことと思われよう日々の小さな幸せを願う愛からもたらされるものではないでしょうか。この原稿を書いている時、満開の桜、そして、その桜が散り始め、教会付属幼稚園の園庭が一面、見事な桜の絨毯になっておりました。そして迎えた新学期の始園日、子どもたちは大喜びで園庭を走り回りまわっていました。私は園児に「すごいね！白百合の園庭には大きな桜の木がいっぱいあるから、桜の絨毯ができた良かったね。」と言いました。子どもたちはうなずいておりましたが、やがて「えんちようせんせい、でもね、ありさんにとつたら、いちまいのさくらでも、おおきな、りっぱなカーペットになるよ！」と教えてくれました。私は、いっばいあるから感動していたのですが、子どもは一枚でもすごいことを教えてくれました。素敵な二〇一六年度の始園日になりました。

主の慈しみは朝毎に新しく、私たちが蒔くべき種さへも与えてくださる主を信じて、私たちは、新年度、白百合幼稚園の学校法人化、青年主体の新しい礼拝を試行していくこと、礼拝讃美にワークショップングを取り入れること、教会エレベーターの設置、新しい教会オルガンの導入など、様々な福音宣教の機会をおおして、主の真実の愛と祝福を、天と地の祈りと力を合わせて、宣べ伝えて参りましょう。ハレルヤ！